

第2回 バス系統ナンバリング検討会 議事概要

平成30年3月19日(月)15:00~17:00

合同庁舎3号館8階 自動車局第一・第二会議室

- 資料説明の後、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。
- 利用者の視点からは、同一系統を複数のバス会社が運行している場合であっても、各種割引やICカードの可否等サービス水準に違いがあるのであれば、何かしらナンバリングで区別した方が良い。
- 他社との番号の調整が難しい。他社だけでなく、鉄道のナンバリングとも重複しないよう配慮する必要がある。
- 系統番号とするか行き先番号とするかは、上り下りで番号が同じ系統番号を基本としつつ、例えばこういったケースは行き先番号とすることも考えられるといった記載にした方が良いのではないか。
- 「ナンバリングは、対象となる系統の運行形態や運行経路などの共通性に着目しグルーピング化することが望ましい」との記載をガイドライン本文に明記すべき。
- 「ナンバリングはアルファベット+数字を基本とする」との表現を、「アルファベット+数字もしくは数字のみを基本とする」というように幅を広げた方が現実的にも対応しやすい。
- 例えば、ナンバリングと併せてカラーリングを行うなど、ガイドラインにはナンバリングを補完したり、ナンバリングをより生かすために必要な方策も盛り込むと良い。
- アンケート結果から外国人がバスを調べるのにスマートフォンをよく使っていることがわかる。wi-fi 環境の整備も重要だが、各バス会社のHPの多言語化やわかりやすいレイアウトへの見直しも重要ではないか。
- バスの経路検索機能の充実も必要。目的地までは複数の系統が選択肢としてあるのに、検索結果には1つしか表示されないこともある。利用者目線からしても一括して検索できるように機能の充実を図ると良い。
- バスは運転士、乗務員が乗客と接するインフォメーションの最前線にいる。現場での案内のしやすさもナンバリングを検討する上では必要なことではないか。
- ナンバリングを関係者で検討する際は、空港・鉄道駅からバス乗り場まで導線がわかるよういかに連続してインフォメーションするか考えることも必要。

- 系統が多いためバスマップの作成が困難な場合は、外国人旅行者が多く利用する系統のみのバスマップを作ることも一つの方法。
- アンケート結果にも出ているとおり、駅やバスターミナルに主要な観光地や方面別に整理された路線図を掲示することもガイドラインのどこかで触れて頂きたい。

以上